

一九八三年三月理工学部土木工学科卒業の夢田と申します。学生時代は金閣寺道の近くで友人と共に下宿して衣笠キャンパスの六号館に四年間通いました。学業に懸命に取り組んだとは言えず試験前には多数の友人と何処かの下宿に身を寄せ合い試験対策をしていましたことや麻雀屋、居酒屋に通い合コンなどの調整に励んだ楽しい思い出ばかりです。卒業研究は「材料」に所属して明石先生、高木先生、角田先生にお会い出来て学業も楽しくなり「超音波を利用したフレッシュコンクリート強度経過特性」の研究を徹夜作業で友人と共に語りながら過ごした事が今でも思い出されます。そんな学生時代の友人と同窓会をする機会が毎年のようにあり、その思い出話で懇親を深めています。卒業後、京都市内にあるコンクリート二次製品メーカーに就職して四十三年目となります。その間、プレキャスト製品販売に携わることはなく官庁工事を行う部署一筋にやつて来ました。入社当時は造成、河川、上下水道等のインフラ、道路工事の施工管理を経験しました。入社六年後の一九八九年から二〇〇五年までの十六年間は、主に現場所長として日本道路公団発注の道路建設工事に携わりました。その間は、日本社会が「歐米に追い付く追い越せ」の風潮があり「二十四時間働けますか?」の言葉が流行りました。私自身も企業の異常さに乘せられてそこに挑戦させられていましたが、辛いことも多くありました。何度も仕事辞めたいと思いました。私自身も企業の異常さに乘せられてそこに挑戦させられていましたが、辛いことも多くありました。私自身も企業の異常さに乘せられてそこに挑戦させられていましたが、辛いことも多くありました。何度も仕事辞めたいと思いました。

広島県支部は、久しく総会も開
広島県支部代表幹事
福馬啓人
昭和六十一年卒

いま思うこと

大学を卒業して二十六年が経ち、今思うと在学中で一番印象に

の研究を継続すべく、京都大学の院生の方々にご指導いただきました。立命館大学から京都大学まで、京都の端から端まで何度も往復した日々は、今となつては懐かしい思い出です。

研究活動においても、市役所や企業との連携が多く、学内での研究にとどまらず、学外での打ち合わせやアンケート調査など、多岐にわたる作業を実施しました。

卒業後、私は大阪府に入庁し、主に道路部門で三十四年間、道路の整備や維持管理に関する業務に従事し、大阪府の道路行政の推進に尽力してきました。

入庁した平成四年は、関西国際空港の開港を二年後に控え、職場は非常に活気に満ち溢れています。私は道路の新設事業の副担当として、公務員生活の第一歩を踏み出しました。

公務員として二年が経ち、橋梁の維持管理部署に異動した矢先の平成七年一月、阪神淡路大震災が発生しました。職場へ向かう途中、ラジオで阪神高速神戸線が倒壊したと聞いた時には、状況が全く飲み込めなかつたことを覚えていま

の中でも、三十
ていると物の見
工事を進めてい
岐阜県は社会
(M.E)といふ技
す。これは、イ
古リスク管理、地
域社会発展や維
る制度です。平
一ヶ月間、岐阜
座を受講して資
。学生時代は講
何とか卒業した
に苦痛の日々で
格取得後にもの
つて終わりでは
持管理に着目し
くようになりま
は建築(特に住
ができるのが基本
までの工事の經
持管理を考え
こと、これから
楽しみです。

迎えあと何年働
せんが(やる気次
らの数年に出会

残っているのは、時代が昭和から平成に変わったことです。昭和最後の日（昭和六十四年一月七日）は朝一番からアルバイトがあり、京都市内をスクーターで走っていると、建物の入口に弔旗が掲げられているところが多数あり、昭和天皇が崩御されたとすぐにわかりました。その日テレビでは一日中どこのチャンネルを回しても同じ番組（敗戦後の日本）を放送していました。その日は私の誕生日であったため、今でも記憶が残っています。その翌日から元号が平成になりました。それから、三十六年が経ち今は令和の時代になりました。時間の流れは早いと最近感じています。就職してからは、東海地方を中心建設現場を回っています。校友会は当初、愛知県衣笠会で途中から現在の岐阜県建設会に参加させていました。まあ、参加と言つても名前だけでなかなか行事に参加できずこの「建設会会報」の寄稿依頼がきたのもビックリです。今は岐阜県の中津川市の地元の会社に在籍しています。この周辺はリニア特需ではありませんが、駅と基地ができることもあつて五年程前から山のようく仕事があり、地元業者ではとてもまかな

えない状態で、あと五、六年はこれが続ります。その中でも家庭を大事にしている私は、今年の四月に有給をとつて家族で韓国旅行に行つてきました。観光で行つたつもりが職業病でどうしても工事現場に目がいってしまいます。韓国の大通りを歩いていると、歩道の整備工事に出くわしました。が、現場を見るなり「マジで?」と思うほど安全意識の低さにかなり残念な気がしました。二十五年前にシンガポールを旅行したときも同じような風景を見ましたがその時は、「東南アジアってそんなもんかな」と軽く流していましたのに韓国は衝撃的すぎて驚きしかありませんでした。そのあと、旅行から帰つてきて、家族と旅行の感想戦をしたときに日本との違いを熱弁していたそうです。仕事はと言うとコロナ禍を契機に、会議はWEBで、飲み会はなし、最近は働き方改革で「ノー残業デー」や完全週休二日と就職した頃を思えば「何とステキな時代の到来」と思いましたが、現場は相変わらず天候に左右され思うようには進んでいかないのが現状です。冬は長い寒波、春と秋は短く、夏

私は、平成四年に大学院を修了した建立会会長の小山です。大学四回生だった平成元年四月、新設された春名教授の都市計画研究室で三年間を過ごしました。研究室は新設されたばかりで、当時は先生の顔もわからず、京都大学近くの喫茶店で先生と研究生六名が初めて顔を合わせたことからスタートしました。

春名先生は大手ゼネコンと連携した仕事をされていたため、研究費が潤沢で、研究室の環境整備に力を入れていました。部屋の模様替え、電話の開設、そして学生一人に一台のパソコンという企業並みの環境は、他の研究室が見学に来るほどでした。

新設の研究室には先輩の大学院

建立会会長
小山卓爾郎
平成二年卒

卒業から三十四年を
振り返つて

えることを期待しています。ありがとうございました。

卒業から三十四年を 振り返って

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit, white shirt, and a patterned tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression. The portrait is set within an oval frame.



北海道支部
井上貞治
平成十年卒

極寒地からの近況報告

と感じています。こうした厳しい自然環境下にある地域特性を踏まえ、「寒冷地環境におけるコンクリートの施工性耐久性の向上」を研究の柱としています。現在は、氷点下におけるコンクリートの凍結を給熱養生だけに頼らず材料面から抑制する技術や産業副産物由来の混和材料を活用した環境配慮型コンクリートの開発に取り組んでいます。実験室での基礎研究はもちろんのこと、実際の施工を想定した実証研究にも注力し、寒冷地インフラの高度化と地域への貢献を目指した実践的研究を推進しています。

また、十年ほど前から、環境都市工学科・川崎佑磨先生の研究室と学生を交えた研究交流を続けており、隔年で双方の研究室を訪問し合い、研究発表や現場観察などを含む交流会を開催しています。同じ土木を学び、コンクリートを研究する学生同士が、地域を越えて交流できることは、相互に大きな刺激となる貴重な経験であり、将来にわたる財産となるネット

職場に到着し、テレビで映し出された映像を見た時、橋梁担当でありながら、このような壊れ方をするのかと大きなショックを受けました。担当する管内にも同型式の橋梁があり、そのため、当時の上司と共にすぐ点検に走りました。

その後、本庁勤務となり、現場とは全く異なる業務に携わることになりました。建設省との協議、調整、予算獲得が主な仕事となり、徹夜で資料を作成し、朝一番の新幹線で片道三時間以上かけて上京する日々を送りました。当時はサラリーマン向けの「二十四時間闘えますか」という飲料CMが流行っていました。現在では考えられないような社会情勢でしたが、私にとっては非常に充実した日々でした。

平成二十八年から現在までの約十年間、新名神高速道路や阪神高速大和川線などの高速道路関連の道路整備を担当し、数々の供用を経験してきました。「ものづくり士」の経験してきました。「ものづくり士」の仕事に従事でき、事業の最終ランナーとしての苦労は多かったものの、大きな充実感がありました。

現在の茨木土木事務所長を最後に府庁を退職する年に、大阪府の幹線道路の一つである「都市計画道路路十三高槻線」の開通式典を本年三月に実施できることは、万感の思いであります。

先生のご指導のもと、平成十年に学部を卒業し、平成十二年に修士課程、平成十五年に博士課程を修了して博士の学位を取得しました。その後は母校に残り、アーバンアーツ研究室で

トワークづくりの場にもなつてます。今後も、寒冷地という厳しい環境で得られる知見をもとに、地盤に根差した実践的研究と人材育成を通じて、インフラの発展に貢献してまいりたいと考えております。これまでの研究活動の基盤となつた立命館大学での学びと出会いは、今も深く感謝しております。建設会のさらなるご発展を願うとともに、皆様のご健勝とご多幸心よりお祈り申し上げます。



愛知県建設会
池津 亮

立命館への第一歩

さて今回、「立命館との関わり」をいろいろ思い出してみたんでが、まあ出てくる出てくる。思出という名の古びたビデオテーが脳内でガシャガシャ回り始めんんですけど、今回はその中でも「験」の話に絞ってお送りします。由は簡単。再び原稿を頼まれたにネタがなくなってしまった困からです。

私は名古屋出身で、最初は当のよう地元大学を受けるつもでした。家から通えて、親しい人もいて、コメダもたくさんあるそんなぬるま湯プランを練つて、わけです。ところが、ある日、一親からまさかのささやき。

「立命だつたら、一人暮らし〇にしたるよ！」

「え？ 今なんて言つた？ 立命関西？」 一人暮らし？

その瞬間、私の中の「関西への流れ」と「親の許可」が奇跡のシンロ。条件反射で「行く行く、めちゃ行く！」と心中で叫び、急に「立命一本勝負」という流れに。當時、たまたま通つっていた塾立命館の地方試験が受けられるとを知り、「いつもの教室で受験きるなんてラッキーだてー」と完に調子に乗る十七歳。そして、験科目は英語・数学・物理の三

こんなにちは愛知県建設会の事務局をやつております、池津大六と申します。一九九九年に立命館大学の理工学部環境システム工学科卒業しました。まさか自分が四〇世紀で上前の話をこんな真面目な場所で語ることになるとは、夢も思つてませんでした。

科。英語はさておき（お察しくだり）、「数学と物理は当時かなり得意だった」。そこで、「これはイケるかも」など、根拠のない自信が炸裂。そして試験当日。なんと、前日受けた某大学の試験で出た「謎難しかつた物理の問題」と似た問題が出題。前日ムキになつて復習していたおかげで、本番では完璧に解けました。これには自分で「これ、運命だてー！」と小声でぶやいたほど。完全にラッキー！ チが決まり、無事に合格。で、てつきり「京都で大学ラーフ！」なんて浮かれていたら、さしつかり調べてみると「びわこくさつキヤンパス」って……え……？ それ？ ネットも今みたいに発達してしまし、地図もあやふや。南草津に降り立った瞬間の印象は一言で「え……ここに人住んでるの……？」



着任の挨拶

大学院修了後の二〇一一年四月より七年間、大成建設株式会社に勤務いたしました。橋梁部門では国内外の橋梁の設計や施工支援、原子力部門では原子力施設の耐震安全性評価や研究開発を担当し、発電会社への出向も経験しました。また、在職中に京都大学大学院工学研究科博士後期課程へ進学し、仕事の合間に社会人ドクターとして研究にも取り組んでおりました。当時はまだ「働き方改革」も浸透しておらず、多忙を極めた日々でしたが、振り返ると大きく成長できた貴重な経験だったと感じております。

はじめまして、重富陽介と申します。二〇一六年三月に京都大学大学院工エネルギー科学研究所にて博士後期課程を修了後（指導教員・東野達名譽教授）、同年四月から長崎大学環境科学部の教員（二〇一六年四月～二〇一八年十月・助教、二〇一八年十一月～二〇二四年三月・准教授）として八年間研究・教育に従事してきました。そして、このたび御縁をいたただき、二〇二四年四月から環境都市工学科の准教授として着任しました。実家は京都市内にあるので、関西の空気はやはり落ちてきます（長崎の最高級の魚介とちゃんとぼんは未だに恋しくなりますが）。元々の出身研究室は大気環境系のラボでしたが、私自身は大学院から学んできたライフサイクル工学（または産業工コロジー、お隣の



環境都市工学科
准教授
重富陽介

着任から一年を 振り返つて

晃先生のご指導のもと、「水平2方向地震動に基づく構造物の耐震性能評価に関する研究」により、博士（工学）の学位を取得することができました。

今後は、これまでの実務経験や研究活動を活かし、立命館大学における教育・研究に全力で取り組んでまいります。特に、民間企業での実務経験をもとに、学生の皆さんのが社会で即戦力として活躍できるよう、基礎理論と実践的応用力のバランスを重視した指導を心がけたいと考えております。

研究面では、インフラレジリエンス研究室の運営を担当し、これまでの知見を活かして、インフラ老朽化や災害リスクといった複雑な課題に対し、実践的かつ学際的なアプローチで取り組んでいく所存です。また、地域社会・自治体・企業との連携も積極的に進め、実用性の高い研究を展開してまいります。

最後になりますが、多くの方々との交流・協働を通じて、教育・研究の両面から環境都市工学分野の発展に貢献していきたいと考えております。今後とも、どうぞご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

学生たちもいます。初年度と二年目に前任校からも三名の学生が大学院生として入学してくれたことがあります。現在は博士生二名、修士生三名、学部生九名、技能補佐員一名で、ワイワイと「さすらい」ながら研究室を運営でています。

本学の研究・教育環境は素晴らしい、周囲の先生方は優秀で人間的にも温かい方々ばかりで、多忙の中でも充実した教員生活を送っています。また、事務室の手厚いサポートには常に助けていただいているので、この場を借りて深く感謝申し上げます。建設部会の皆さまにおきましても、サスライラボともども、ご指導ご鞭撻賜れますと幸いです。今後もどうぞよろしくお願い申し上げます。

立命館大学技術士会の活動内容の紹介とお願ひ

立命館大学技術士会は、平成21（2009）年12月に立命館大学出身者で技術士資格を保有する校友により設立され、その活動は16年目を迎え、会員数は約170名となっています。

【活動内容の紹介】

- ①立命館大学理工学部卒業生への技術士受験指導を実施。結果、建設部門、上下水道部門、機械部門、総合技術監理部門に、延べ46名の技術士を輩出。
また、技術士資格挑戦者への支援として、毎年3月より受験ガイダンスおよび受験講習会を各2回実施。さらに、11月以降で口頭模擬試験を数回実施。

②本学の教育活動に協力し、学園の発展に貢献。
環境都市工学科の授業担当講師として、技術士制度および技術士資格を取得するための過程について講義し、将来受験する技術士第二次試験について、実際に例題を取り上げて解説。
また、環境都市工学科の授業を活用し、1回生には『めざせ！技術士』、同3回生には『立命技術士懇談会』と題してJABEE制度や技術士の職務と役割について講義し、学生達に受験意欲の向上を図ると共に、卒業後の技術者としての社会活動のあり方や実社会での経験談を披露。

③地域及び社会活動への技術的支援や未来の技術者への助言を発信。
その一環として、平成27年7月に『土木、この素敵な世界』～技術者がつなぐ未来のネットワーク～、令和4年1月に『土木技術者が語る未来』～今、伝えておきたい技術者的心～、と題して電子書籍を発刊。立命館大学卒業生の土木技術者達の力作です。

【技術士会からのお願い】

★当技術士会の活動にご協力いただくためにも技術士資格取得者の方々には、当会に技術士資格の保有情報を下記事務局までお知らせください。

★平成29年から会員相互の交流の一環として会報誌をリニューアルし、会員相互のコミュニケーションツールとして、また会員技術士の論文発表の場として活用しています。

★当技術士会の目的に賛同いただき入会をご希望の方は、ご連絡をお待ちしております。みなさんと一緒に、技術者の地位向上と社会への貢献に微力ながら前進させたいと願っております。

令和7（2025）年5月 立命館大学技術士会幹事会
事務局連絡先：企画・窓口担当 E-Mail : rits.kikaku.mado@gmail.com
立命館大学技術士会 - <https://clumpi.ritsumei.ac.jp/ritsutsusikai/>

事務局より

お知らせ

■会員登録データ

建設会員名簿のもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。このデータベースは、年会報の送付、総会などの各種案内、また、各支部からの連絡、会費請求の事務などに利用しております。

今回送付いたしました年会報に同封されている「会員登録データ」をご確認いただき、修正や変更等がございましたら8月末までに建設会事務局までご連絡下さい。

■建設会年会費ご納入のお願い

立命館大学建設会は皆様の年会費で運営されています。

2025年度会費のご納入をお願い致します(年会費:3,000円)。

なお、銀行からのお振込も可能です（ゆうちょ銀行109（イチゼロキュウ）支店、当座0000884）。お振込の際、お手数ですがお名前の前に10桁の会員コードを

▶過去名簿のお取扱いについて

名簿は、会員の皆様の大切な個人情報を掲載しております。過去の名簿をお持ちの会員様は、その保管およびお取扱いには十分ご注意いただくようお願い致します（転売厳禁）。ご不要になった名簿につきましては、お手数ですが焼却あるいはシュレッダー処分をしていただけますようお願い致します。

建設会事務局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1
立命館大学理工学部都市システム系事務室内(担当:山元)
TEL:077-561-4911 FAX:077-561-2667

https://ritsumei-kensetsukai.net/
E-mail : kenstkai@st.ritsumei.ac.jp
会費払込郵便振替口座 : 02 大阪 01080-1-884

※8月8日～18日まで、大学一斉休暇となります。何とぞご了承下さい。